

「この人 80」

松井まさし 76歳 神奈川県

編集部 俳句を始められたきっかけは？

松 井 一九八八年、句誌「浮巢」（二〇一〇年終刊）に入会しまして、天休翼主宰の「大船の日向を駆へ笠智衆」を読んだのが決め手でした。

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

松 井 以前から、自分の句は滑稽の要素が多いのではないかと感じておりましたが、二〇一二年「俳壇」の裏表紙広告で「第五回滑稽俳句大賞」の募集を見てからです。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

松 井 真面目な俳句以外作らない人は、へんに厳しすぎるところがありますが、滑稽俳句は、俳句の世界を広げます。日常生活もゆとりを持てるようになります。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

松 井 「滑稽宣言」、<俳句の本質に滑稽がある>をなぞれば、<人間の本質に滑稽がある>と思います。余裕の中から滲み出る表現がユーモアにつながります。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

松 井 思い詰めなくなり、怒りはうすらぎ、長生きできそうに思われます。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

松 井 会報の「俳句学入門」「笑える五七五」などコツコツ読んで掴んでいくことだと思います。

【代表句】

美人先生転びし跡の春の泥  
見つめ合ふゴリラとわれの春愁ひ  
山笑ふ時には金齒のぞかせて  
しばし尾を躍らせてみる穴惑ひ  
寒泳や優柔不断の係長